

教育系学生の海外研修の実態 — 小学校教員をめざす学生のための海外研修の在り方の検討 —

The Actual Situation of Overseas Training of Education System Students
— Study of the Role of Overseas Training for Students Aiming to be Elementary School Teachers —

清水 和 久 (人間科学部こども学科教授)

Kazuhisa SHIMIZU (Faculty of Human Sciences Department of Child Study Professor)

〈要旨〉

こども学科(教員養成)の学生の海外研修経験の調査を行うとともに、実際にこども学科の学生が参加した3つの海外研修(「フィリピンでの国際ボランティア演習」, 「学生企画台湾教育研修」, 「エリアスタディーズ・オーストラリア」)のそれぞれの特徴について明らかにする。これらの結果をふまえ、海外研修の事前準備も含め、こども学科の学生が魅力を感じる海外研修の在り方について考察を行う。結果、学生がもつめる研修内容は観光地の見学よりも、教育施設の訪問や人との交流体験をより重視しており英語はその交流手段として必要性を感じていることが分かった。また、1, 2年の早い時期に海外経験を積む事により、教育に携わる思いも強くなることがわかった。

〈キーワード〉

海外研修, 国際交流

1 研究の背景

近年、大学にもグローバル化の波が押し寄せている。大学の講義を英語で行うというものや、海外から多くの留学生を受け入れキャンパス内での交流を図るもの、海外に提携校をつくり、積極的に日本の学生を留学させるなど様々である。海外でのテロの危険性などマイナス要因はあるものの海外との積極的な交流の傾向は変わらないであろうと思われる。世界の様々な課題に対して、国境を越えて協力していく姿勢は大切であり、そのための基盤となる人的交流は必要であるからである。

本学においては、2017年度より人文学部国際文化学科が開設され、全員半年程度の海外留学が義務化されている。一方、人文学部の開設に伴って、既存の経済学部や人間科学部においても、海外研修に力を入れており、新入学生のガイダンスでは積極的に海外研修について説明し勧誘を行っている。具体的には、エリアスタディーズ・短期語学研修(1カ月程度)、長期語学研修(3カ月から8カ月)の開設など、海外研修体験を積極的に進めている。

筆者はこども学科に所属しており、本学科は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の免許の取得を目指している学生が集まってくる。教員志望の学生が体験したことは、将来の彼らの受け持ちの子どもに伝えられる可能性が高く、教

員志望の学生の海外経験が、次世代の子ども達に与える影響は大きいと思われる。

それゆえ、本研究では人間科学部こども学科の特に小学校教員を目指す学生に焦点を当て、大学に入ってから海外渡航の経験の有無、今後の海外研修の予定などを全学年にわたって調査し、海外研修の経験者の数や、まだ、海外研修を体験していない学生の今後のニーズなども含めて調査を行いたい。

また、筆者が引率、または関与した大学のいくつかの海外研修について、日程や内容、事前の準備、時中の交流内容、事後の学生の感想などの概要について比較分析をし、こども学科の小学校教員を目指す学生のニーズに合った海外研修の在り方について考察することとする。

2 研究の方法

1) こども学科の学生が利用できる海外研修の種類と概要の調査

主に、本学の国際交流センターが主催する海外留学、海外研修について、対象の学年、その意図、概要等を明らかにする。

2) こども学科の小学校教員を目指す学生の海外渡航歴、及び今後の海外研修の希望調査

調査対象は以下の学年とする。

- ・ 1年次生 教職入門受講生 (64名)
- ・ 2年次生 特別活動の研究の受講生 (44名)
- ・ 3年次生 社会科教育法受講生 (31名)
- ・ 4年次生 教育実習受講生 (28名)

1年次は、小学校及び幼稚園の希望者が分かれていないため、全員が受講する「教職入門」の授業で調査。

2年生から4年生は、おもに小学校教員希望者が受講する講座において海外研修の調査を行う。

3) 3つの海外研修の企画内容、実施内容についての調査

調査対象の海外研修は以下の3つである。いずれも筆者が同行または関わっており、内容把握も容易であると考えたためである。

- ・ 短期海外実習 国際教育演習フィリピン (15名)
- ・ 団体企画研修 台湾教育旅行 (12名)
- ・ エリアスタディーズ・オーストラリア (8名)

4) 筆者が関わった3つの海外研修の比較

上記の3つの海外研修に対して、以下の4つの観点について比較する。

- ・ 事前準備
- ・ 参加した学生の人間関係
- ・ 現地大学生との交流
- ・ 現地小学生との交流
- ・ 現地での観光内容

5) 各海外研修について学生の感想の分析

参加学生の自由記述の報告書よりキーワードを抽出し、どのような項目について言及が多いかを比較する。

3 研究の結果

3-1 学生が利用できる海外研修の種類と概要

本学のこども学科の学生が利用できる制度は、「平成28年度海外留学ガイドブック」⁽¹⁾によると大きく分けて、「海外留学制度」と「海外研修制度」の2つがある。前者は、約4カ月から8カ月間、大学の協定校の学部の授業を受講する語学研修プログラムである「派遣留学」「交換留学」があると同じく約4カ月から8カ月間、後者は、3～5週間、協定校の付属英語研修センターで英語を学ぶプログラムの他、語学に特化しない研修制度として、以下の7つの研修が準備されている。

表1 海外研修制度（語学習得を目的としないもの）

名 称	内 容
エリアスタディーズ (1, 2週間)	教員が引率する研修プログラム (韓国, シンガポール, オーストラリア, インドネシア, アメリカ, カナダ等)
個人企画海外研修 (最低1週間以上)	本学学生が個人で企画し承認された企画

名 称	内 容
団体企画海外研修 (1週間程度)	学生団体として認められた団体が企画
海外ボランティア (2～4週間程度)	各国のボランティア希望者と共同生活をして活動を行う (CIEE主催の企画)
海外インターンシップ (1～4週間)	外部団体主催による海外での就業体験
協定校主催短期研修 (1～4週間)	協定校が主催する短期研修プログラム
短期海外実習 (2週間程度)	本学の授業科目として開港される海外プログラム (国際教育演習：フィリピン)

上記の海外研修への参加が認められれば、帰国後に報告会の義務はあるが、大学から補助金が補てんされる。

そのほかに学生が海外に行ける手段としては以下の3つ。

表2 その他の部の海外研修枠

名 称	内 容
SJP (星稜ジャンププロジェクト)	学生支援課：学生の自主企画 例・世界の教室から ・ 国際スマイルキャラバン
ほしたび	就職支援課：上海, ウラジオストック ・ 就職に関するスキルアップ
Moonshot abroad	就職支援課：セブ島 (女子限定企画) ・ フィリピン語学研修

学生支援課の学生企画SJP (星稜ジャンププロジェクト) は学生自らが企画したことに対して大学が費用を支援するものである。SJPの「世界の教室から」は、カンボジアへ日本語を教えに行く企画であり、SJP「国際スマイルキャラバン」では、フィリピンの学生と実際にあつての交流を企画している。

また、就職支援課がおこなうものとして「ほしたび」は、船で上海やウラジオストックへ行き、航海途中に就職に必要なスキルを身に着けるもの。

Moon shot abroadは女子大生、女子短大生を対象にしており、フィリピンのセブ島にて2週間程度の英語の研修を行うものである。このように大学が実施する海外留学、海外研修の機会は、全部で10種類あり、数多く用意されていることがわかる。

3-2 学生の海外留学・海外研修体験の調査

こども学科の小学校教諭を目指す学生に対して上記の海外研修の体験の有無を尋ねた。なお、調査は6月ごろ行ったが、その年度内で海外研修の予定が確定しているもののその年度内の数の中に加算してある。

1から5の海外研修の項目については2015年度から新規に実施されたため経験者が少ない。特にエリアスタディーズはオーストラリア、およびインドネシアが主な目的地であ

表3 大学企画の海外研修経験者数

学 年	1	2	3	4	合計
調査合計人数	64	44	31	28	167
1 エリアスタディ	8	8	3	0	19
2 個人企画	0	0	0	0	0
3 団体企画	0	0	6	6	12
4 海外ボランティア	0	0	0	0	0
5 海外インターンシップ	0	0	0	0	0
6 短期研修	1	3	2	4	10
7 海外実習	9	2	9	12	32
8 SJP	6	0	6	0	12
9 ほしたび	5	0	5	4	14
10 MOON Shot abroad	3	1	1	3	5
合計	32	14	32	29	104

るが、1,2年生限定のため、開始2年目の本年は4年生には経験者はいない。また、海外ボランティア、海外インターンシップ、個人企画研修も同様に開始されたが、応募者はまだいない。

以下、海外研修の回数を延べ人数ではなく、複数回でも人物が同じだと1回と数え、海外研修経験者と海外研修予定者の学生数を、調査した人数を分母としてその割合を比較した。

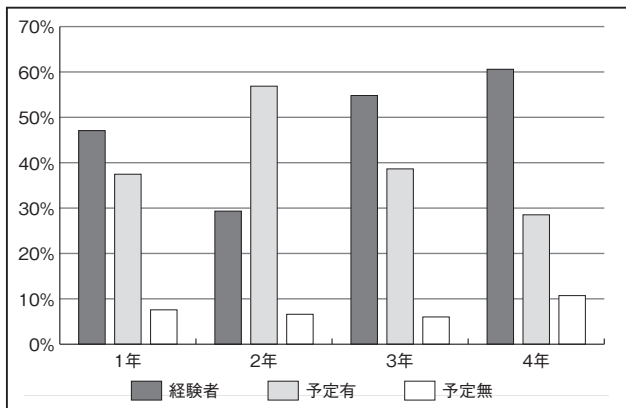


図1 学年ごとの海外研修の経験及び予定の有無

全体的な傾向として2, 3, 4年生と経験を積むごとに、海外研修経験者の占める割合は増えている。これはある意味当たり前である。しかし、今年度入学の1年生は、初年度は、約半数近くの学生が海外研修に行くことが決まっており、2年生に比べて海外志向の割合がかなり高いといえる。これは、今年度の人文学部の開設とともに、国際交流センターが、人文学部以外でも海外研修の参加者を集めようと広報に力を入れた表れだと思われる。

1年生は、年度内に47%が海外研修に行き、大学時代に海外研修を計画している学生は38%、合計86%が大学時代に海外研修を行う予定である。2年生は経験者30%と少な

いが、予定者の57%を入れると合計87%、3年生は経験者55%、予定者39%で合計94%、4年生は経験者61%、予定者29%年で合計90%であった。

このことから、半数の学生が海外研修経験者であり、予定も入れると9割以上の学生が大学時代に海外に行くことを考えていることが分かる。

3-3 3つの海外研修の詳細

本研究では、大学の海外研修の内、筆者が引率又は企画に関わった以下の3つの海外研修について、実施概要を述べた後、比較を行う。

- 1) エリアスタディーズ・オーストラリア (研修番号1)
- 2) 学生団体企画 台湾教育研修 (研修番号3)
- 3) 海外実習 国際教育演習フィリピン (研修番号7)

3-3-1 エリアスタディーズ (研修1)

訪問国：オーストラリア (メルボルン)

形態：希望者 (1, 2年) 8名

期間：2016年2月 10日間

訪問先：Wooranna Park 小学校, La Trove 大学

目的：現地小学校視察、現地大学との交流、観光地見学

日程：

日	内 容
1	JR 金沢→関空 シンガポール航空 関西空港発
2	シンガポール着、1日観光 夜チャンギ空港発
3	メルボルン着 メルボルン市内観光
4	La Trove 大学訪問 日本語教室に参加、学生と交流
5	Wooranna park 小学校訪問 授業見学
6	ブライトンビーチ
7	メルボルン動物園
8	都市公園散策 ユーレカ高層ビル見学
9	グレートオーシャンツアー 野生のコアラ、カンガルー
10	ビクトリアマーケットで買い物 夜メルボルン発
11	シンガポール経由 関西空港着 JR 関空→金沢

この研修は、世界をいくつかのエリア (アメリカ, ヨーロッパ, アジア, オセアニア等) に分け、大学教員が引率して行うものである。位置的には、学生の語学力も特に必要とされず海外研修の入門的な物である。筆者が担当したのは、オセアニアのエリアであり、小学校訪問と大学生との交流をメインのイベントとした。そのためか応募してきたのはすべてこども学科の学生であった。



写真1 Wooranna park小学校視察

Wooranna park小学校は、地域の先進的な小学校であり、日本でいう総合的な学習の時間に当たる活動が充実しており、教室には各学年のテーマに合わせた、バス、ドラゴンボート、宇宙船などの実際に乗り込んで体感できる施設などが作られていた。また児童は、1年かけて自分の関心あるテーマに合わせて学習できるようにカリキュラムが組まれていた。



写真2 La Trobe大学の大学生との交流

大学訪問では、日本語を学んでいる学生の授業にゲストティーチャーとして参加し、日本語のテキストを範読するなど、現地の学生と交流する時間を持つことができた。

その他の観光地は、学生が自ら調べて訪問地を決定した。

3-3-2 団体企画 学生台湾教育研修（研修番号3）

訪問国：台湾（台北市、嘉義市、台中市）

形態：清水ゼミグループ（3、4年）12名

期間：2016年1月 9日間

訪問先：台北市日新国民小学校、台南市新山小学校、嘉義市文雅小学校、台中教育大学

目的：現地小学校3校の視察、現地教育大学との交流、小学校においてワークショップの実施

日程：

日	内 容
1	小松発 羽田経由 台北松山空港着
2	台北市日新小学校訪問
3	台南市新山小学校訪問 烏山頭ダム見学
4	嘉義市文雅小学校訪問 英語の授業参観 ワークショップ
5	嘉義市内観光
6	台中教育大学訪問 教育系の学生との交流
7	台中市市内観光
8	台北市内観光
9	台北松山空港発 羽田経由 小松空港着

この団体企画は、学生が企画し大学に承認されたものである。学生はゼミ活動で国際交流プロジェクトの支援を行っているが、市内の小学校の国際交流の相手校が台湾にあり、その小学校を訪問し、日本でも行っているワークショップ「世界がもし100人の村だったら」⁽³⁾を英語で行って行くという企画である。また、台湾の小学校の英語の授業に参加したり、その中で日本の文化紹介もさせてもらったりした。帰国後の日本の小学校への報告会もある。⁽⁴⁾



写真3 台湾 嘉義市立文雅小学校での授業視察

帰国後は、訪問先の小学校の様子などを、交流の提携をしている日本の小学生に報告することを行った。

また、台中教育大学の学生との交流は、小学校の教員を目指す学生同士、互いの国の教育事情や大学のカリキュラムなどについてディスカッションを行った。

観光としては、台南市で、金沢出身の八田與一が台湾統治時代に建設した烏山頭ダム、台北では、「千と千尋の神隠し」の映画でも有名になった九分なども見学した。



写真4 台中教育大学の大学生との交流

○3-3-3 海外実習 国際教育演習（研修番号7）

訪問国：フィリピン（ダバオ市）

形態：授業（1，2，3年）単位認定有 15名

期間：2015年9月 14日間

訪問先：ミンダナオ国際大学 PNJK 小学校 Baon 小学校
ダバオオリエンタル州立大学 H.O.J（孤児院）目的：孤児院への訪問，開発途上国の漁村の視察，
大学との合同プロジェクト推進，観光
ワークショップの実施

日程：

日	内 容
1	夜行バス 金沢出発 → 大阪駅
2	関西空港 マニラ経由 ダバオ着
3	ミンダナオ国際大学訪問&交流 市内観光
4	PNJK 小学校訪問，大学でのワークショップの実施
5	アイランドホッピング 大学生との交流
6	孤児院訪問 児童と遊ぶ
7	ボランティア活動 箸づくり
8	サンゴ礁観察（ティナイトイ）
9	BAON 小学校訪問
10	幼児施設エンジェルハウス訪問，オリエンタル州立大学訪問
11	漁村訪問（バイバイバトバト村）
12	マプティ溪谷で児童と交流 お別れ会
13	ダバオ空港→マニラ経由 関空着 夜行バスで移動
14	金沢着

この海外研修は，大学の集中講義の授業として行われ単位認定されるものである。前期の「国際教育」の講義で座学の理論として学んだことを，開発途上国を訪れ自分の目で確かめることを目的とする。内容は大きく分けて2点あり，前半はミンダナオ国際大学（以下MKDと略す）の学生との交流及び付属小学校の訪問，後半は孤児院ハウスオブジョイ（以下HOJと略す）での滞在である。MKDとは，国際共同壁画制作アートマイルプロジェクトを実施しており，この交流を踏まえて帰国後も交流を続け半年をかけて壁画を共同で作成する。



写真5 ミンダナオ国際大学の大学生との交流

後半に滞在したHOJは，日本人が運営している孤児院。お風呂もなく，シャワーは水しかでないという日本とは生活様式もまるで違う中で，1週間の滞在。子ども達と関わる中で，親がいなくても友達を大事にし，明るく生きている姿から，教師になる上で大切なことを学んだ。



写真6 BAON 小学校への視察



写真7 HOJの孤児院の子ども達との交流

3-4 筆者の関わった3つの海外研修の比較

上記の3つの海外研修について，以下の5つの点について比較した。

- ・参加した学生の人間関係（親密度）
- ・現地大学生との交流
- ・現地小学生との交流
- ・現地での観光内容

表4 3つの海外研修の項目別比較表⁽²⁾

項 目	エアスタディ	学生団体企画	海外実習
国 名	オーストラリア	台 湾	フィリピン
人間関係	△初対面者多い	◎ ゼミ仲間	○授業受講生仲間
大学との 交流内容	△その場限り △2時間の交流のみ	◎その場限り ○1日間の交流のみ	◎SNSで事前交流 ◎半年間の交流
小学校との 交流内容	△見学のみ	◎プロジェクト支援 ◎ワークショップ	◎プロジェクト支援 ◎ワークショップ
観光の扱い	◎ メイン行事	○ 付属行事	△付属行事

◎積極的に取り組めたもの △あまり積極的ではないこと

・ エリアスタディーズ・オーストラリア

事前に3回ほど顔合わせをし、しおり等を作成した。メンバーはこの海外研修のために集まったメンバーであるため、事前のメンバーの互いの認知度はそれほど高くない。訪問した大学も小学校も事前の交流はなく、訪問時にも日本側から日本文化紹介などはできなかった。交流に関していうと内容的にはそれほど深めることができなかった。

しかし、それ以外の観光の場面では、学生1人1人がプランを立て、自分で行き先を企画するなど、自主プランを十分行うことができた。

・ 団体企画（台湾教育研修）

この研修は日本の小学校との国際交流を支援している筆者のゼミ生が学生企画として計画したものであり、ゼミ活動を行っているのでメンバー同士の認知度は極めて高い。訪問先の2つの小学校では100人村のワークショップを英語で実施し、日本文化紹介を行うことができた。台中教育大学の学生とは、事前に交流を試みたがうまくいかず、当日になっての交流となった。

研修全般については、担当学生が交通手段や観光も含めて事前に調査し、自分たちの手で企画をおこなえた。

・ 海外実習（フィリピン国際教育演習）

この研修は、全15回の国際教育講座を受講した学生が受けることができ、渡航前に、フィリピンの歴史や開発途上国が置かれている現状などについて事前学習をおこなっている。

フィリピンの経済的背景などマクロ的な理解は事前学習で実施。また、交流先の大学生とはペアーを決めてSNS等で自己紹介も済ませており、TV会議も行っている。また、ワークショップである100人村を大学生に対して英語で実施することができ、自信につながったようである。

3-5 報告書からの3つの海外研修の比較

それぞれの海外研修について、学生の報告書をもとに内容をキーワード化した。

3つの研修は参加対象の学生も違い、単純に比較はできないが、報告書で触れられている内容を精査し、7つの項目に分けた。その項目について触れられている人数の割合を表5に表わした。子どもとの交流について、1番高いのはオーストラリアとフィリピンの研修、英語と教師の視点

（教師になった時に伝えたいこと）からの言及が多いのは台湾の研修であった。なお、台湾も子どものことに関しては第2位。教師の視点に関してはオーストラリアもフィリピンも第2位であった。また、異文化よりも自文化への言及が多いのは、海外に行くことで日ごろ意識しない日本文化を再認識できるためであろう。

以上のことからこども学科の学生の興味は、観光よりも人との交流。それも子どもとの交流経験にあることが分かった。また、交流に必要な英語の必要性にも多くの学生が言及している。

表5 海外研修の感想のキーワード化と分類

	異文化	自文化	英語	教師の視点	子どもとの交流	大学の交流	国民性
1	0%	25%	13%	63%	88%	38%	13%
2	0%	17%	83%	83%	67%	42%	42%
3	13%	33%	40%	47%	80%	33%	33%

1.オーストラリア、2台湾 3フィリピン

4 研究のまとめ

こども学科（小学校教員志望）の学生は、学年が上がるにつれて海外研修体験者が増えている。1年生は特に多くその数は大学3年生にも迫る勢いである。これは今年度の海外研修への積極的な広報活動が効いていると思われる。どの学年も海外へ行く予定も含めるとほぼ95%を超える学生が海外研修に行くことを希望していることになる。

また、海外研修では観光地の見学よりも、外国の教育施設への訪問や、現地の人との直接交流体験に価値を置いており、英語はその交流手段として必要性を感じている。

最後に、海外研修は、事前準備からはじめ、訪問国の情報を調査し、目的を明確にして事前交流を始めることで魅力あるものになると考える。

今後金沢星稜大の学生が在学中に海外研修の機会を多く持ち、教育に関わる部分で様々な見聞を広めてほしいと思っている。内容については、事前から訪問先の人との交流を開始し、帰国後もその人と繋がることで海外研修がより価値あるものになる。そして、学生が教壇に立った時に、その経験を子ども達に語ることで、日本の教育をより豊かなものにしていくことができると考えるはずである。

注

- (1) 平成28年度海外留学ガイドブッカー—自分を超越する力、逆輸入— 金沢星稜大学国際交流センター 2016
- (2) 金沢星稜大学 年報No.36 金沢星稜大学総合研究所 2016. 3 P72
- (3) ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」第3

- 版 開発教育協会 2011. 9
- (4) 日本国際理解教育学会第26回研究発表抄録 国際協働学習で実践する英語科のアクティブ・ラーニング 西野聡子 P126 2016. 6. 17